



令和 7 年 1 月 9 日

令和 6 年度第 3 回「海外物流戦略ワーキングチーム会合」を開催 － 自動車生産世界4位のインド、小型車のグローバル生産拠点化進む －

(一社)日本物流団体連合会は、12 月 12 日(木)、令和 6 年度第 3 回「海外物流戦略ワーキングチーム会合」を千代田区の全日通霞が関ビルで開催しました。この会合は、物流事業の海外展開に関する課題を官民連携で検討するもので、会員企業や国土交通省から 50 名が参加しました（内 25 名が Web 参加）。

今回の第 3 回目となるワーキングチームでは、少し趣向を変えてインドにおける自動車産業についてスポットをあて、中型 2 輪車の輸出拠点なども言及し、これから進展するインド産業の現状と今後を現地調査の内容を含めた講演会としました。

第一部の講演会では、株式会社フォーイン企画調査部部長の前田偉康氏をお招きし、「自動車生産世界 4 位のインド、小型車のグローバル生産拠点化進む」と題しご講演いただきました。講演会にはワーキングチームメンバー以外も多数聴講いただき、Web 参加を含めて合計 93 名が参加しました。

講演は、はじめにインドの自動車産業全体の順位について自動車販売が 2 年前に日本を抜いて世界 3 位、自動車生産については、まだ日本の輸出が沢山あるので、世界 4 位となっている。小型車がメインであったインド自動車のトレンドは、SUV へと変化し、需要を牽引し拡大している。中国と比較して人口規模は変わらないものの、1 人あたりの GDP では、かなりの差が生じている。但し、2030 年頃にはインド経済も成長し自動車販売台数も 1 千万台を超える可能性が高い。中型 2 輪車の生産拠点については、欧米のバイクメーカーからの委託で中型 2 輪の生産が多くなっていると説明され、その他、自動車業界の関係者との情報も多くあり、貴重な講演会となりました。

第二部のワーキングチーム会合では、国土交通省物流・自動車局 国際物流室 室長の牧野氏から「国土交通省の国際物流政策の取り組みについて」説明がありました。具体的には、まず輸送容器の標準化について、2024 年 10 月の APSF（アジアパレットシステム連盟）総会におけるアジア諸国の標準化状況として、日本が官民連携でパレット標準化推進の KPI 設定に協力していることや、日中韓では前年度比でパレット標準化が向上したことなどを報告されました。また、国交省のパレット標準化推進分科会最終とりまとめとして、2030 年までのロードマップと標準化の実現に向けた KPI を設定したことを発表されました。次に、国際物流の多元化・強靱化事業について、中央回廊に関する実証調査に参加する企業が決定（3 事業者・5 案件）したこと、また、2024 年 11 月にタイで開催された ESCAP 会合で、日本の中央回廊を利用した実証輸送や今後の BCP ルート開拓について発表した取り組みを紹介するとともに、多元化・強靱化の後続事業に関する会員アンケート調査への協力を依頼されました。

続いて事務局から、10 月に実施したアンケート調査の結果を基にインド物流実態調査の項目と希望エリアを纏め、現在のところ、海外渡航に関する規制も一部地域を除き殆ど無

い状況であるので、2025 年 4 月に現地へ出向いて調査を実施する予定であると説明しました。

最後に事務連絡を行い、第 3 回の会合は終了しました。

今後も物流連は、会員企業の海外展開に資する取り組みを実施してまいります。

【講演された株式会社フォーイン 前田偉康氏】



【最近の取り組みを発表される国土交通省 牧野武人氏】



【会合が開催された全日通霞が関ビル】

